

第2B(中)分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 特別支援教育の充実

サブテーマ ～支援を必要とする子どもへの組織的な体制作りと教頭としての関わり～

提言者 白杵市立野津中学校 安藤 宏徳

1 質 疑

- (1) 進学を希望する支援が必要な生徒に対して、高校が受け入れてくれない実態はないか。
A. 高校は「本校の教育に耐える者」としているのが難しい事案があることは事実である。
- (2) 情報教育のときに保護者の協力があって、うまくいったとあるがどういうことか。
A. 子どものことについて熱心にアドバイスをしたら、受け入れてくれて協力的になった。
特に、担任まかせにせずに組織的に対応することで、保護者の信頼感が高まった。

2 協 議

- 体制づくりや組織づくりについては、力をいれているが、実行したり、活性化したりするのが難しい。(タイムリーに会議をもつことが難しい)
- 特別支援教育の免許を持っている方(専門性のある方)を各学校に配置できるとよいと思う。
- 特別支援教育の研修の充実を図り、すべての教員の力を高めることが必要である。
- 特別支援コーディネーターと特別支援学級の担任の負担を減らす役割が教頭にはある。
- 保護者と進路の話をするときに、担任まかせにせずに組織的な対応するように教頭は働きかける必要がある。
- 担任・コーディネーター・管理職の役割の見直しを行う必要がある。
- 幼小・小中・中高の連携をいかにとるか、教頭としての役割は大切である。

3 指導助言

- (1) 通常の学級の生徒の中には、障がいのある生徒に受け入れがたい感覚を持つ生徒もいる。
また、障がいのある生徒は、そのハンディキャップゆえに人間関係が狭く、社会性が未発達だったり、体験不足のため相手の行動を誤解したりする可能性もある。担任はこのような両者の未発達な部分をふまえて指導する。担任は両者の互いの個性と人権に気づかせ、人間関係を広め強めて、それぞれの自立を援助し、認め合い、励まし合い、助け合いのできる学級づくりに日々努力します。しかし、なかなか思うようにいかず厳しい現実であることが実態なので、管理職を中心とした組織的対応が必要となる。
- (2) レポートでは、白杵市教頭会の取組が示されており、研修会、白杵市の取組や市内各校の実態の共通理解などが行われており、市内全体の特別支援教育の充実を図るための推進役となっていることが伺える。
- (3) コーディネーターの資質として、職務への情熱をもっていること。「行動力」「チャレンジ精神」を発揮できる人物であること「迅速な情報キャッチ」と「連絡調整能力」をあげることができると。また、障がいの有無や程度、課題の把握、保護者の教育への関心などに幅広く対処することが求められる。